**◆2015年度第5回幹事会ミーティング議事録◆**

2016年1月12日

記録者：湯井

日　時：2016年1月7日(木)14:00～17:00

場　所：ルネッサなんば2F パーティールーム

参加者：

下出谷 良治(株式会社ネスト・ジャパン) 山中 清任(特定非営利活動法人くらしと生活環境を守る会)

山本 晃大(山本化学工業株式会社) 高田 不二雄(特定非営利活動法人くらしと生活環境を守る会)

平林 英二(人と防災未来センター) 島 千佳(ワンゲイン株式会社)

梅 千得(ワンゲイン株式会社) 湯井 恵美子(大阪府立支援学校PTA協議会OB会)

浦川 健一(株式会社メビウスLink)　　　　 ※ゲスト参加：tsukuruより仲宗根さま・中井さま

資　料：①WS成果資料、②第12回定例会企画案、③事務局運営の現状と課題について

**⓪３月の特別イベントの提案：　ゲスト参加：tsukuru 仲宗根さま・中井さま**

●tsukuruさんと、そなえ隊のコラボイベントについて下出谷さんから提案あり、以下、提案内容

主題：時期的に3.11にちなんだ「防災」テーマ

日時：３月８日(火)　18:30スタート(18時受付)～遅くとも22時半まで

　　　　前半90分(セミナー)　防災士 木村氏 講演30分と、ワークショップ60分(tsukuruによる交流仕掛け)

後半90分(懇親会)　　参加者交流

会場：バリアフリーを意識して設定していきたい。

集客：総勢50名くらい

・仲宗根さんもtsukuru会員も防災意識がそなえ隊の方々と大きくかけ離れているので良い刺激になる。

・企画は、下出谷さんと中曽根さんとが担当となって進め、幹事会でサポートする。

・集客について、tsukuruは有料会員のみ、そなえ隊は通常のルートで声がけする。

●以下、幹事会よりご意見

・コンセプトの違う双方合同でやるというのは難しいので、時期的にも5年目として3.11の検証的なことをすべき。適当なタイトルがないと参加者が集まらないのでは？

・コラボの意味は？　⇒双方で企画協力をする。今回は「防災」をキーワードにマッチングを試みる。

・・・・・・・・・・tsukuruさんについて・・・・・・・・・・

「tsukuru」は「つなぐ、学ぶ、つくる」でビジネスマッチング、ご縁をつなぐ。発想の刺激になる。

月に３〜４回くらい、他団体とのコラボ催し実施、会員300名〜多種多様な業種の方々との交流イベントを行う。

年会費で運用(1万、4万、8万)、イベント各回の参加費は2,000～5,000円ほど

・・・・・・・・・・

**本件は３月８日に定例会外イベントとして行うことに決定。1月末までに企画の概要を報告する。**

1. **12月定例会の振返り (関西そなえ隊これからの活動方針と理念についてまとめ)**

●ワークショップの成果資料(資料①参照)とアンケート集計結果(12月23日配信済み)を参考に各位のコメントは以下の通り、

湯井：

プレゼンテーションは１人が良いのでは。

沢山意見が出る。皆さん、しゃべりたい気持ちが強い。まとめるためのもう一段階のステップが必要。

話をし合って、それでこそのそなえ隊か、と感じた。

下出谷：

そなえ隊についての率直な考えを拾えた、ということがとても良かった。否定的なコメントで出たことをつぶしていけば、そなえ隊を構築していける。

高田：

そなえ隊はいつからあるのか？まだ把握していない。　⇒2014年4月発足

せっかくこうした組織があるなら、もう少し大きな目標を持って具体的な取り組みを進めるべき。

ビジネスになれば良い、社会貢献もしたい、といろいろな想いの人が集まっている。

本当の目標がまだ出ていない。組織として決まっていない。作っていった方が良い。

何をすべきか、ということはまだ言えないが。

山中：

大阪・関西の行政が防災に対してどこに相談したら良いか、という時の窓口母体となるべき。

ワークショップで描かれたものをもっと突き詰めてそなえ隊としてのコンセプトを作る。

山本：

ネガティブな意見も率直にうかがえて良かった。

ワークショップをすることで今後の方向性を描くということのヒントにはなっているが、時間足らず、具体的なビジョンを描くところまで到達していない。

隊員個々の意見を聞いて、幹事会で対応して行動に繋げていくことで今後が描かれる。

浦川：

各班でカラーが出ている。

・チーム平井：ビジネス

・チーム相島：ネガティブ

・チーム坂本：どこに何をどう売って行くか（小学生がここまで整理できるのは素晴らしい）

坂本さんの「防災カフェ(仮)」がそなえ隊の情報発信基地になると良い。

一番大切なのは行政に認知されるべき、ということ。社団化は一案。

ハードを置いてソフト面(防災啓蒙)を進める。すぐにはできなくても方向性としてはそっちを目指すべき。

行政は尖ったところを探しているので、そこにヒットしていくべき。２年や３年ではできないことかもしれないけど。

平林：

会員の「話したい」気持ちは達成した。今後どんなことをどう進めるべきか議論を進め、新年度の予定立案時につなげる。

**②　2月定例会の内容について（2月担当：平林さん）**

●第12回定例会　開催は2月24日（水）14時～ 概要案の提示(資料②企画案を参照)

・「パーソナルな減災用品」展示を見てすぐに理解は難しいかもしれないが、備え方のポイントの掴みをワークショップで取り組む。

・ひとうぼうで開催するので参加費は無料

・展示を見た方が参加者の理解が進むが、展示会の見学料は個人負担。

・プレゼン(7社くらい)　＋　ワークショップ

・14時～18時(セミナー)、18時～20時(懇親会)

・告知チラシは通常のデザインではないものを作る

●素案の提示、ご意見聴取、交換

下出谷：昼間のイベントだから、早めに告知をした方が良い。

浦　川：行政からの参加者を交流会にお誘いする。

湯　井：事前に企画展を見ておくことは必須では。　⇒一時に50人の見学は場所的に無理なので、事前に各個人の都合で見学してほしいと案内に入れる

下出谷：何人くらい来るか。　⇒50人くらいか。要援護者の防災対策について意識のある人中心。

浦　川：大学の庶務課とかに告知しては？大学はほとんど備蓄していない。神戸の人はもう忘れちゃった人が多いから学ぶべき。

山　本：インテックスでの催しがあって、参加できない。交流会から参加。

・早めにチラシを作り、メールで配信(通常は開催日1か月前まで)

・2月24日当日に参加者に対してそなえ隊としての挨拶し、隊員募集の機会にする。

・隊員募集告知、イベントのチラシを更新・作成して現在開催中の展示会に置いてもらう。

**③　今後の定例会、その他の予定について 　4月定例会（4/27）のテーマ・担当者決め 6月定例会以降の日程等**

●２月２８日（日）『浜寺4校区津波避難訓練』

●新年度の定例会、幹事会日程設定について

湯　井：講師代は発生して良いのか。

平　林：今のところはあまり発生させていないルールでやってきている。各回完結の予算でやるのもやり方の1つ。

浦　川：3.11で関西に避難してきている人に、語り部として体験談をしていただくのは？

下出谷：ダッシュ隊大阪の中嶋さんは、定例会でプレゼンを希望されている。

浦　川：整体師の学生が津波の被害者の遺体の形を整えるボランティアの話を聴いた。避難した後の二次災害なども一般には知られていない。実際体験した人の話を聴き「わが事」にしてもらう。

下出谷：スケジュールが合えば、3.11に特化したテーマで中嶋さんにお願いしては。

高　田：おおさか災害支援ネットワーク、ゆめかぜ基金でも東北の被災地の方のお話を聴いた。社協のニーズとそなえ隊の役割が合うのではないか。そなえ隊の組織化（持ち株会社など）を考えても良い時期。定例会の曜日を固定してはどうか。

湯　井：年に1度くらいで経費のかかる講師を呼んでのイベントをやってはどうか？

平　林：そなえ隊らしさで講師を選ぶべき。そなえ隊の活動意義と目標を定めて、それに合う講師を呼ぶべき。

梅　　：決められた予算ありきではなく、(講師料支出など)選択肢を広げるという考え方もある。

浦　川：先ずはそなえ隊の方向性を決め、活動内容を決めることが第一義。また、集客できる講師という考え方もある。定例会参加動向のデータはあるか？

島　　：参加者、講演テーマなどの過去の実績データはそなえ隊のグーグルドライブ上に保存してある。

下出谷：12月のWS成果資料を熟読し、6月以降の定例会テーマと講師の案を次回幹事会までの宿題にする。

●イベント・定例会日程の決定について

　tsukuruさんとの特別イベント、次年度の幹事会、及び定例会の日程は以下の通りに設定した。

　 3月 3日（木）　幹事会

3月10日（火）　イベント：企画担当（下出谷）

4月27日（水）　定例会：企画担当（湯井）　場所：レストランテコロナ（浦川）　次期幹事候補者の募集

5月11日（水）　幹事会

6月29日（水）　定例会：未定（3/3 に決める）

7月 6日（水）　幹事会

　8月24日（水）　定例会：

　9月 1日（水）　幹事会

10月26日（水） 定例会：

※但し、9月1日設定の幹事会については、その後事務局として協議の必要あるかと気がつきました。今後、改めて皆さまに打診させていただきます。

≪宿題≫過去の定例会データを共有し、まだ担当していないメンバー優先に考え、次回幹事会(3月3日)にそなえ隊の方向性の具体性、及びそれに則った6月以降の定例会テーマ、講師案を持ち寄る。

**④事務局より**

平林さんより事務局の現状(新運用システムの導入と移行)、余剰金、経費、及び事務作業について説明された。

添付資料③「事務局運営の現状と課題」参照

●事務局の現状（新システム導入の件）

・メーリングリストによる情報配信の開始、配信できない問題は対処中。

・専用電話の設置：080-4640-0214（受付担当：湯井）

・そなえ隊事務局の住所が必要だか、可能な場所の提案を待つ。

・ウェブサイトは立上げ済み、今後、フェイスブックも含め実務作業で情報追加する予定。

・現状では事務局経費は平林さんが個人的に負担している。

●事務局作業の推進（現時点の現状）

・現状では平林、上元、島、湯井。上元さんの引継ぎ的に湯井が事務業務の一部を担当。

●経費について

・現状の会計報告：余剰金は約40万

・事務局運営：3名(上元、島、湯井)の事務時間は約70時間/2ヶ月

・事務局業務運用のための経費を個人、或いは所属している会社に支払えば、誰でも事務作業を担えるのでは。

・そなえ隊として収益性のある活動の柱を立てて活動し、健全な事業性を目指す。

ご意見は以下の通り、

・双方向でやり取りできる幹事会のメーリスが必要　⇒googleなどのフリーサービスを活用して早々に用意する。

・各定例会の運営は収支を黒字になるべき。

・事務局経費は余剰金から個人、或いは所属の会社に支払った方が良い。

・新年度に会費収入があるのでは？　⇒隊員の入隊費について更新料はない。入会費で運営する組織ではない。

・一般社団法人として組織を整えるべき。解散しやすいなど条件を整え、行政と関わりやすくし事業を考えるため。住所はレンタルオフィスで出来る。経費は月1万円(浦川さん参考情報)。

・新年度に向け幹事会を改選し、組織を整え、意思決定機関を事理が運用するという仕組みが必要。

≪宿題≫事務局の形態について考察し、一般社団法人として組織を整えることに対し勉強し、次回幹事会(3月3日)に意見を持ち寄る。

以上